

ペルーの落葉果実事情(ブドウ)

米国農務省GAINレポート2024年度11月8日

これは米国農務省海外農業局リマ事務所(ペルー)が作成した「落葉果実年次報告書」を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

ペルーの2024/25年度のブドウ生産量は、前年比2%増の79万トンと予測される。この増加は、総栽培面積の48%を占める北部沿岸地域の天候条件の改善によるものである。2024/25年度の生食用ブドウの国内消費量は国際価格の上昇により昨年より少ない17万トンと予測される。ペルーの2024/25年度のブドウ輸出量は、前年比17%増の62万トンに達すると予測される。米国は引き続き最大の輸出市場である。

表1 チリの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生鮮、生食用) 販売年度の始まり ペルー	2022/23		2023/24		2024/25	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	34,000	34,000	35,000	35,000		35,500
収穫面積(ヘクタール)	32,000	32,000	33,000	33,000		33,500
商業的生産量(トン)	645,000	645,000	654,500	654,500		670,000
非商業的生産量(トン)	121,000	121,000	121,000	121,000		120,000
生産量合計(トン)	766,000	766,000	775,500	775,500		790,000
輸入量(トン)	20	15	300	83		70
総供給量(トン)	766,020	766,015	775,800	775,583		790,070
生鮮国内消費量(トン)	144,120	144,015	250,800	246,583		170,070
輸出量(トン)	621,900	622,000	525,000	529,000		620,000
市場からの隔離(トン)						
総仕向量(トン)	766,020	766,015	775,800	775,583		790,070

生産

ペルーの2024/25販売年度(年度、10月～翌年9月)の生産量は、天候に恵まれ前年比2%増の79万トンと予想される。生産量の増加が見込まれるのは、昨シーズンの極端な暖冬と大雨で深刻な打撃を受けたペルー北部(ピウラ県)の収穫量の増加によるものである。

ペルーの生食用ブドウの産地は、太平洋に沿って北から南に広がっている。海岸沿いの砂漠的な環境のため、日々の気温は一貫して9℃～30℃で、1日12時間の日照時間が一年中あり、ブドウ生産に理想的な地域となっている。これらの条件と、収穫技術と精密灌漑への投資により、ペルーはブドウの生育期間が近隣諸国よりも55%短い。

ペルーが初めて生食用ブドウの生産を開始したのは、1990年代後半に主要な戦略的経済セクターの1つとして農業に賭けた時であった。ペルーは過去20年間で、複数の貿易協定、水供給インフラ、及び砂漠を生産性の高い農地に変える能力を備え、農業投資先として成長した。

2023/24年度の生育期間は、異常な気象条件(大雨と熱波)の影響を大きく受け、収穫量が減少した。国の北部(ピウラ、ランバイエケ、ラリベルタスの各県)で生産が深刻な影響を受け、前年と比較して生産量が30%減少したと報告されている。同様の状況は、エルニーニョに起因する悪天候が収穫に影響を与え不作をもたらした2017/18年度にも見られた。一方、今年度の収穫は、天候の改善により昨年度よりもかなり良くなると予想される。

ペルーのブドウ生産者らは、農園での水の効率的な利用を確保しながら、変化する気象条件に適応してきた。さらに、ライセンス制のブドウ品種により、一般的なブドウ品種と比較して生産性と競争力が向上した。

図1 イカ県のブドウ生産(2024年度10月上旬)



出典: 当事務所

ブドウの産地は主にイカ県(49%)とピウラ県(37%)に所在している。その他の産地は、ランバイエケ(6%)、ラリベルタ(5%)、アレキパ(3%)の各県にある。総栽培面積は3万5,500ヘクタールと推定される。ペルーの収穫期は10月に始まり、北から南へ収穫が移動し、4月に終わる。革新的な技術の進歩により、ピウラ県の生食用ブドウは、3月～4月と11月～12月の年2回収穫することができる。

図2 ペルーのブドウ産地



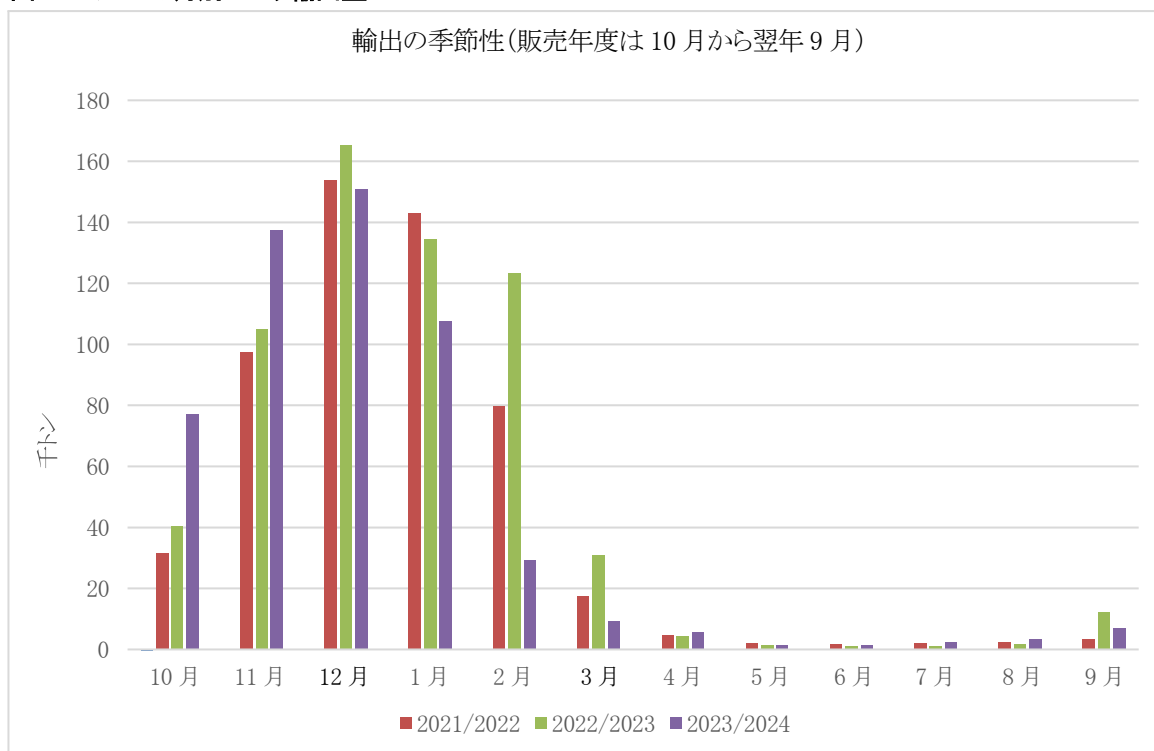
出典: ペルー農業省(MIDAGRI)

従来から白及び赤/黒の種無しブドウ品種は、全国各地で均等に栽培されてきた。輸出向けに最も人気のある5つのブドウ品種は、スイートグローブ(22%)、レッドグローブ(16%)、オータムクリスプ(14%)、アリソン(7%)、スイートセレブレーション(5%)である。現在、生食用ブドウの75%がライセンス制を採用しており、従来からの品種は25%で、この業界が市場主導型で、近代的かつ対応が迅速であることを示している。

さらに、ピスコ(ペルー特産のスピリッツ)用のブドウとしては、ケブランタ、ネグラクリオラ、モラール、ウビーナ等の非芳香性の品種と、イタリア、モスカテル、アルビージャ、トロンテル等の芳香性の品種がある。ワイン用の品種としては、ペルーには、ボルゴナブラック及びホワイト、カベルネソーヴィニオン、シャルドネ、マルベック、メルロー、モスカテル、モラー、シラー、タナ、ピノヴェルド、ピノワール等、30品種がある。

ブドウは、ブルーベリーに次いで、ペルーで農園を設置するのに最もコストのかかる作物の1つである。ペルーのブドウ作は、土地代を除いて1ヘクタール当たり約5万ドルの初期投資が必要である。生産コストの約30%が土壌の準備と灌漑システム、25%がトレリスの設置、14%が植物自体、4%が剪定と栽培管理に充てられる。これは、小規模農家にとっては大きな支出である。しかし、価値の高い品種の生産への投資は、かなりの収益をもたらす可能性がある。栽培管理が必要で労働集約的な作物であるブドウ産業は、ペルーの農業部門で多くの雇用を生み出している。イカ県等の生産量の多い産地では、労働力に対する安定した需要により、ブドウ生産は年間を通じて雇用の場を提供することができる。

図3 ペルーの月別ブドウ輸出量



出典: ペルー税関(SUNAT)

消費

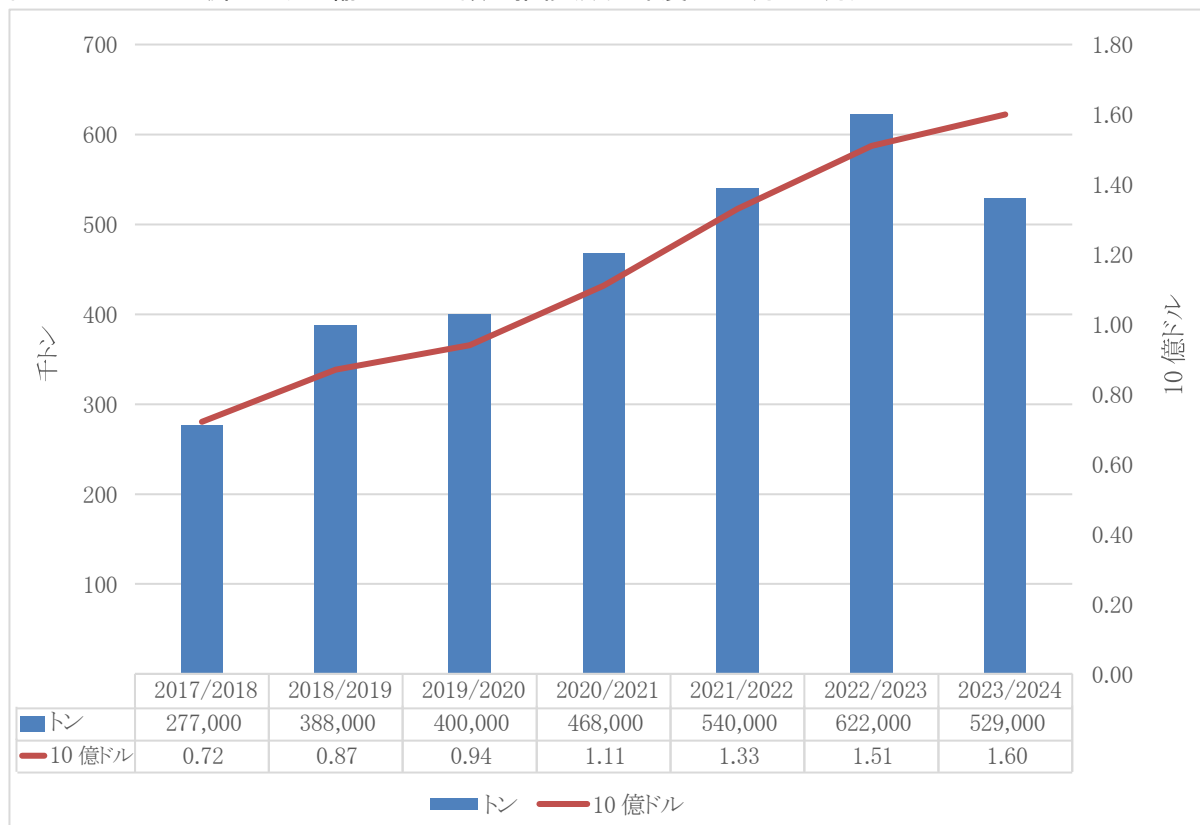
2024/25年度の生食用ブドウの国内消費量は、前年比30%減の17万1千トンと予測される。国内のブドウ市場は、価格が国際市場よりも大幅に低いため、生産者にとっては二次的な市場である。種無し白ブドウが、引き続き国内市場で大勢を占めている。

ピスコ(ペルー特産のスピリッツ)産業はブドウのもう一つの重要な消費形態である。2023暦年のピスコの生産量は730万リットルと推定され、悪天候と社会不安の影響を受けて30%減少した。米国、スペイン、日本、オランダが、ペルー産ピスコの最大の消費国である。ピスコの輸出は1千万ドルの市場である。リマ県とイカ県が、ピスコ製造の90%を占めている。

貿易

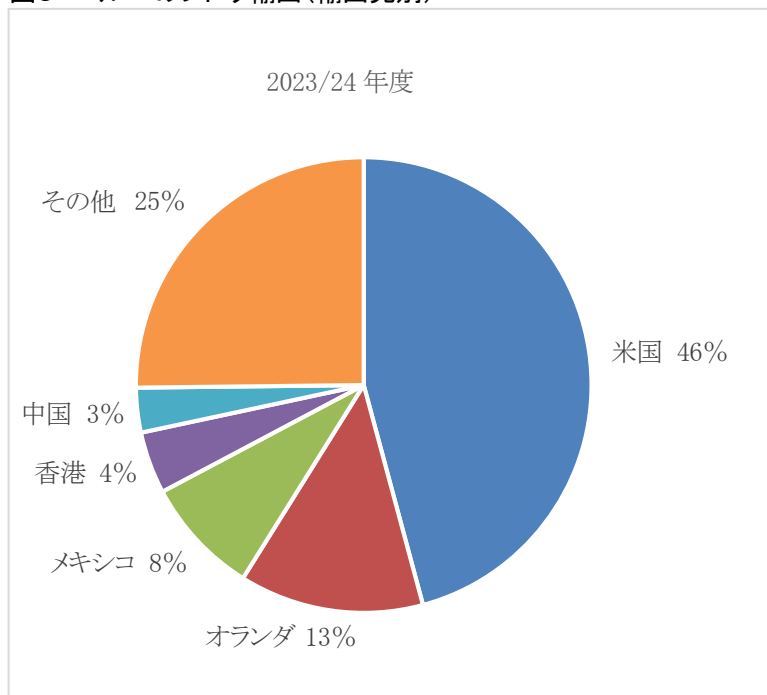
当事務所は、2024/25年度の輸出量が前年比17%増で史上最高の62万トンに達すると予測する。2023/24年度の最大の輸出先は輸出量24万4千トン(3%減)の米国で、次いでオランダが7万トン(7%減)、メキシコが4万5千トン(21%増)であった。

図4 ペルーの生鮮ブドウの輸出量と金額の推移(販売年度は10月～9月)



出典：ペルー税関(SUNAT)

図5 ペルーのブドウ輸出(輸出先別)



出典：ペルー税関(SUNAT)

2023年(暦年)には、生鮮ブドウがペルーの農産物輸出額でトップであった。2023/24年度の輸出額は前年比6%増の16億ドルに達した。輸出市場でのブドウ価格は、1トン当たり平均3,100ドルであった。2017/18年度以降、ペルーの生食用ブドウの輸出は年率14%で増加している。

ペルーの生鮮ブドウの輸出先は、上位5各国で輸出の73%を占めている。メキシコはペルーの生鮮ブドウの3番目に大きな市場であり、成長している。ペルー北部の産地から出荷される生鮮ブドウは、総輸出量の40%を占めているが、2022/23年度から30%減少した。ライセンス制の生鮮ブドウ品種が総輸出量の77%、伝統的なブドウ品種が23%を占めており、生食用ブドウビジネスの中心的な要素として、品種に関する確固たる傾向を示している。

政策

ペルーは21の二国間及び市場圏との貿易協定に署名しており、その中には米国、中国、欧州連合が含まれるものもある。これらの協定は、PROVID(ペルー最大のブドウ協会)及びSENASA(ペルー国政府の農業衛生植物検疫庁)の活動と相まって、ペルーのブドウが53もの市場(2023/24年度現在)に参入することを可能にした。

2024/25年度には、ペルー産のブドウは間もなく8年ぶりにエクアドルに輸出される。ペルーは現在、オーストラリア、フィリピン、チリ、イスラエルの市場開放に取り組んでいる。

新しく改装されたピスコ市(イカ県)の港は、2023年11月上旬にイカ、アレキパ両県に毎週のエクスプレスサービスを開始した。ピスコ港は、パナマの積み替えハブ経由でイカ県と米国(サバンナ、フィラデルフィア、ロサンゼルス)、メキシコ(マンサニージョ)、カナダ(バンクーバー)、北ヨーロッパ(オランダのロッテルダム及びベルギー(原文はフランス)のアントワープ)を結んでいる。平均所要日数は、フィラデルフィアまで12日、メキシコまで18日、ロサンゼルスまで22日、ロッテルダムまで20日、バンクーバーまで30日である。

同港は、9千~1万1千TEU(20フィートコンテナ相当)の船(新パナマックス規格)が利用できる。これにより、時間を節約し、輸送コストを削減し、輸送中のブドウの品質を保持する。ピスコ港の近代化プロジェクトは、完了までに5年の歳月と2億5千万ドルの投資を必要とした。2023/24年度のピスコ港からの生鮮ブドウ輸出量は40%増加し、他方パイタ港とカヤオ港はそれぞれ31%及び36%減少した。

2024/25年度の生育期間には、2024年11月14日に開港予定の多目的港であるチャンカイ港が、取扱量と貯蔵量の点でペルーの主要港として取って代わる可能性がある。公式情報によると、チャンカイ港はアジアへの輸送時間を短縮し、ペルーの対外貿易の競争力を高める。また、ブラジルからの輸送日数を12日間短縮する(No. 205参照)ため、同国はチャンカイ港をアジアに到達するための貿易回廊として検討している。